



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成31年1月

うるわし通信

新しい時代の幕開け

平成31年を迎え、会員各位の本年のご健勝をお祈り申し上げます。

さて、あと4か月で平成時代が終わり、新元号の新しい時代が始まります。

平成時代はバブル崩壊、デフレからの脱却に苦勞しつつ成熟社会の在り方を模索した時代でした。地震、台風、豪雨などの災害でも大きな犠牲を出しながら懸命に生きてきた日々でもありました。

今年は、新しい時代を迎えて、この機会に2020年代、30年代への長期的視野をもって今後の戦略を考えるべき時だと思えます。

海外では、自由主義、民主主義の模範であった先進国が軒並み、分断と格差に揺さぶられ、一方で独裁的専制政治の国が増え、民主主義、資本主義が危うい状況です。幸いその中で、日本は先進国で一番平和で安定している国と言えるでしょう。

自国第一主義のわがままが横行する中、日本は多様な文化の共生を掲げ、自らも、他者も共存する道を探らなければなりません。

少子高齢化など諸課題を乗り越え、すべての人が幸せを感じる社会にするための叡智が求められています。いま世界的に、それぞれの地域の風土に根差した伝統や文化に対する関心が高まっており、人々を引き付ける新たな魅力になっています。その流れの中で小さくてもキラリと光る里山ビジネスの成功例も報告されています。これからはIoTやAIによる第4次産業革命が起こることは必至ですが、うまくこれを使いこなしてチャンスを広げたいものです。

桜井市では、これまで取り組んできた一連のまちづくりが今年は大きく具体的に進みそうです。桜井駅周辺や大神神社参道、長谷寺門前町、大福駅周辺整備、纏向遺跡などの活性化に期待が高まります。

今年は統一地方選挙やG20開催、参院選など国の行方にかかわる重要なイベントが続く年でもあります。うるわしの桜井をつくる会の各位の一層のご活躍と、住みよい街へ、まちづくりのため、引き続きご協力とご尽力をお願いする次第です。



うるわしの桜井をつくる会会長 堀井良殷

大神神社 参道整備事業

念願の大神神社参道整備事業の起工式が、平成30年11月17日（土）におこなわれ、本格的な整備事業に着手されることになりました。

三輪の参道整備事業は、平成26年12月に桜井市での6地区を対象とした「奈良モデル」の1つとして「まちづくりに関する包括協定」が締結されて始まりましたが、三輪地域は、平成22年奈良県が進めている「一市一まちづくり」のモデル地区に採択され、賑わいのあるまちづくりを地域の特性を活かして進める取組みが先行して行われてきていました。

そして、地元住民・桜井市・奈良県が連携してまちづくり協議会を結成し、地元住民の意見を募って整備計画を論議してきたものです。整備対象地域は、桜井市ホームページで示されているように、奈良県行政が担当する整備区間は、国道169号交差点の大鳥居周辺から、二の鳥居までの730Mの県道部分にあたります。

今回の事業着手は、万葉まほろば線の踏切部分から神社に至る約250Mを、21年度中までに整備をおこない、その後西側の整備に取り掛かるというものです。

参道整備の内容としては、道路の中央部を歩けるようにし、歩道の両側を石畳風の車道として、街路は灯籠風に仕上げるといいます。

この間、約9年間「三輪まちづくり会議」が持たれ、三輪の魅力の把握や課題解決に向けた検討が行われて、道路構造やデザイン等も話し合いがなされたようです。

この事業の取組みは、他の4地区での検討の包括協定事業の先導的なものとして、地域住民の方々の参加と協働の取組みとして、期待と注目が寄せられるものと言えます。



起工式には、写真右より松井正剛桜井市長、荒井正吾奈良県知事、地元三輪校区自治会代表増田富夫区長をはじめ、地元県会議員の中村昭、和田恵治両県議、札辻輝巳市議会議長をはじめ、関係諸団体の代表者が参加されました。

（注）この取組みの紹介に向け、奈良県中和土木事務所の「三輪参道の整備について」や桜井市役所ホームページの記事を参照しました。構想イメージなどが紹介されています。

桜井市役所ホームページでは、具体的な事業の紹介が掲載されています。

[桜井市大神神社参道周辺地区のまちづくりに関する基本協定の締結について](#)

（通信 編集部）

桜井の魅力を再確認する芸術文化イベント

一昨年の国民文化祭・障害者芸能文化祭（障文祭）の奈良県開催を受けて、昨年9月から11月末にかけて、県内で大芸術祭・障文祭のイベントが継続事業として行われました。桜井市においては11月4日に国際まほろば音楽祭が市民会館で開催され、市内外より多くの方々が参加されました。

今年2月に桜井の文化芸術についてのイベントが相次いで開催されますので、そのことを紹介すると共に、会員をはじめ多くの県民の方々に桜井を再確認して頂きたいと思えます。

「日本発祥フェス トーク&ライブ」 2月3日(日曜日) 午後1時から市立図書館



千田稔館長

今回の取り組みは、土舞台顕彰会が毎年秋に実施しているユーラシアアンサンブルに続いて、芸能発祥の地＝桜井を、さまざまな視点をもつ文化を通じた地域づくりにつなげていこうとするものです。

トーク（講演）

は、千田稔奈良図書館情報館長による「日本発祥の地～ここ桜井、日本の心のふるさと～」



櫻井ゆかさん



中西健さん

で、桜井が日本文化の発祥の地である事を紹介いただくことになっています。

ライブは、櫻井ゆかさん、中西健さん両名共桜井出身のシンガーソングライターとして活動されており、20代の若者による日本の心の歌を紹介して頂きます。

「第2回卑弥呼の里芸術祭 ～障害のある人もない人もともに～」

昨年の障文祭を契機に、市内の諸団体と、桜井が発祥の地である奈良たんぼぼの家の協力で「卑弥呼の里芸術祭」がおこなわれました。多くの方が感動と共感を持った素晴らしいイベントであったと感想が多く寄せられていました。

この事業を引き継ぎ、第2回卑弥呼の里芸術祭が**2月23日(土)13時より市立図書館**でおこなわれます。うるわしの桜井を作る会も、この実行委員会に参加して、諸準備を進めていますので、是非参加ください。

地元からはチェリーフロッグス（晴眼者と盲人の方々によるコーラスグループ）や、ソプラノ歌手の庵前通世さんが出演。また、今回の注目は、びわ湖ホールで活躍しているテノール歌手の竹内直紀・清水徹太郎さんが出演して、カンツオーネやオペラの Aria を歌ってくれることです。今年は童謡誕生100年と云う節目の年で、参加者一同童謡で盛り上がりとう予定されています。

『日本発祥フェス トーク&ライブ』や『卑弥呼の里芸術祭 ～障害のある人もない人もともに～』等の桜井から音楽を通じた新しい発信が、「国際まほろば音楽祭」と共に、今後とも広がりのあるまちづくりへと繋がっていくことが期待されます。（編集者）

第8回新春交流昼食会

毎年恒例の交流昼食会を開催します。今年は、プレゼンテーション～桜井のまちづくり～を企画していますので、多数のご参加をお待ちしています。

日時 平成31年1月20日（日）正午より

場所 桜井市粟殿「あるぼ～る」

会費 ¥3,000

①プレゼンテーション

桜井市理事 林 功 氏

桜井まちづくり会社 岡本 健 氏

②特別出演 旭堂さくら(川本三栄子)さん

③お楽しみ抽選会(賞品の提供にご協力下さい)

事務局：高瀬(TEL：090-1678-9157)



第12回纏向学セミナー

日 時 1月27日(日)13:30～14:00

場 所 桜井市立図書館 研修室1

「イト国からヤマトへ」

講師 柳田 康雄 氏(國學院大學客員教授)

対談 寺沢 薫 氏(纏向学研究センター所長)

定員 270名(事前申し込みが必要 定員になり次第締め切り)

参加料 無料

問い合わせ先 纏向学研究センター TEL：0744-45-0590



お知らせ

●図書館友の会

1月の読書会は、前回に続き「生権力の歴史：第3章」小松美彦著です。

なぜ脳死が人の死とされるのか。なぜ尊厳死が推進されるのか。「人間の尊厳」の系譜を、ギリシア哲学やキリスト教神学からたどり直し、生権力の淵源に迫る。

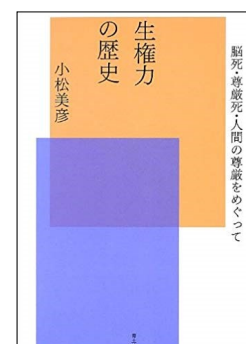
日 時 1月22日(火)13:30から

場 所 コミュニティーカレッジ 知の森 (近鉄大福駅から北西へ100m)

希望者はテキストを事前にお申込みください。

問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 2018年の漢字は「災」で、地震・台風・大雨等の各地を襲った災害を反映したと云える。また、明治150年ということで様々なイベントも国主導で行われ、テレビで「西郷どん」を見られた方も多いと思う。戊辰戦争から富国強兵・殖産興業へと進んでいった中で、「琉球処分」と言われる琉球王国を廃絶して沖縄県の設置が強行された。辺野古埋め立ての強行は沖縄県民の願いを反映しないもので、日本国憲法の下で行われているこの事態は、沖縄に限定されることなく全国的な問題として、我々も関心をもっていくことが2019年への継続した課題と考える。 (編集子 K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157